

高校、大学を見すえた  
 中学3年間を連動させた探究型の学びで  
 考え、まとめる力を養う総合的な学習

自主的な学びと学習の習慣付け

# 学びレポート



## 関西大学第一

「関大一中を研究する」では、創立100周年に参加しよう」と題して学校誌の編集に参加。高校、大学を含めて自分の学校を知り、帰属意識を持たせるのが目的。制服の移り変わりを担当したHさんは「現在3年単位でジャージの色が変わりますが、順番が違っていた学年があるので、なぜそうなったのかを調べています」と話す。



一人ひとりの興味を引き出す  
 中学2年の「基礎探究」

関西大学の併設校である同校では、中学の総合的な学習の時間に高校、大学での学びを見通し、考える力や自ら調べて行動する力をも身につける探究型の学習を行っています。

まず1年では「探究入門」と題し、「インターネットとの付き合い方」「英語で絵本作り」「植物を見て、触って、考える」など6つのテーマに沿って、各クラスが順番にすべての講座を受講。中学生として身につけるべき知識や技能を習得します。

2年では一人ひとりが講座を選択し、探究を進めていく。基礎探究「へと移り、学んだことをレポートにまとめます。テーマも「昆虫と植物の生態学」「実験をしよう」「本から広げる自分の世界」などと専門的になり、個人的な興味とリンクさせながら学びを広げていくのです。

受講した2年生に各講座の内容や感想を聴きました。

「木材を用いたおもちゃづくり」に挑戦したJくんは、幼い頃からモノづくりが大好きだったそうです。「友だちと助け合いながらサイコロ



紙飛行機を作って飛ばす実験から始まった「大空へ飛び立とう」の講座。

やカラクリ人形を作りました。工程を記録するとき、1年の時に「探究入門」で文章の書き方を基礎から学んだことが役立ちました」と話します。

「液化窒素を使った実験では、軟式野球のボールを凍らせて地面に落とすとバラバラに壊れることがわかりました。水酸化ナトリウムと亜鉛の粉末を熱して、色を銅から金に変える実験では失敗ばかりでしたが、疑問がわけばすぐ調べる習慣ができました」と話します。

と話すのは、「実験をしよう」を選んだNくんです。

飛行機やロケット、UFOが大好きなMくんは、迷わず「大空へ飛

び立とう」を選択。

「紙飛行機やゴムドーム飛行機、風などを作って飛ばしました。ほかにも1万個以上の風船を着けて空を飛ばす、アニメ「カールじいさんの空飛ぶ家」のように風船で人を宙に浮かせる実験をしました。エンジンなしでどうすれば人が空を飛べるかを考えるのが楽しいです」と瞳を輝かせます。

一方「関大一中を研究する」の講座で、来年創立100周年を迎える同校の学校誌作りに参加するのはHさん。

「昔の修学旅行や制服の変遷を調べています。年表の空白を埋めていくのは大変だけどやりがいがあります。大学で資料や古いアルバムを見ながら今と比べるとおもしろく、OBの先生方の話も交えて深みのある内容にしたいです。最近では気づいたことをメモする習慣ができました」

**中学3年の「卒業探究」で自主的な学びの楽しさを実感**

「参加型の授業の第一歩となる1年の『探究入門』では思考力を、2年の『基礎探究』では選んだテーマを深く学び、研究した内容をまとめる力を養います。そこで問題

点が生じれば解決方法や改善策を考え、3年の『卒業探究』で要する基本的なスキルを身につけるのです」と教務主任の藤堂秀仁先生。

「卒業探究」では、興味のあるテーマを自らの方法で探究して論文として仕上げ、最終的にみんなの前でプレゼンテーションを行います。

「修学旅行で出会った人たちが遭遇したハプニングを二冊の本にまとめた」と話すのは、将来マスコミ関係の仕事に就きたいというHさん。

パイロットか航空機の整備士になるのが夢のMくんは、

「誰もが想像しないような物体を飛ばしてみんなを驚かせたい」と語ります。

「大学では自らの問いに仮説を立てて、検証して発表するという研究のスタイルで授業が行われます。それを中学時代から経験し、高校では中学では足りなかった基礎知識や技術力を補い、大学進学後の学習や研究活動へとつなげてほしいですね」

（藤堂先生）  
 大学併設校ならではのゆとりが実現させた中学の探究型学習は、将来の夢の実現を見すえた長期プロジェクトの入り口となることでしょう。

**Point 1** 自分の興味のある分野を知り自主的な学びへとつなげる



「探究入門」の「植物を見て、触って、考える」講座では、生徒たちは校内を隅々まで歩き探取した植物を分類した。基礎探究の「昆虫と植物の生態学」はもとより「関大一中を研究する」講座にもつながった。「採取した植物を図書室で調べ、名前や種類を探るのが難しかったけれど、僕たちの学校にはたくさん植物があることがわかって誇らしくなりました（Mくん）」



「探究入門」基礎探究、卒業探究とも指導するのはその教科担当の先生とは限らず、その分野に興味を持った先生が生徒と一緒に調べるスタイル。資料はインターネットや同校の図書館で探すが必要であれば大学のさまざまな施設も利用できる。

**Point 3** 考え、まとめ、発表する力をつける



2年の「基礎探究」には「サッカーで学ぶコーチング論」「まちをつくらう」写真」「理数力を鍛えよう」「昆虫と植物の生態学」など、大学の授業を思わせるような専門色の濃い講座があり、自分の興味を掘り下げて学べる。選択した講座は3年の「卒業探究」でも引き続き履修し、卒業論文としてまとめた後、プレゼンテーションで集大成を迎える。3年間で集大成を迎える、まとめ、発表する力は自身のスキルとして高校や大学の学習、研究で発揮される。

**Point 2** 各自でテーマを選択し、学びを深める2年の「基礎探究」



中学のキャリアユームで行わないような発展的な実験ができる、と人気の講座「僕は小さい頃から、なぜ、という疑問をそのままにしておかず、たとえば虹や雷はどうして起こるのかなど本を読んだり、インターネットで調べたりして調べるタイプ。この講座を受けてから通常の理科の授業が楽しみになり、卒業探究は、原子的について徹底的に調べたいと思います（Nくん）」



平面（木）から立体（おもちゃ）を創り上げる過程が楽しい木材を用いたおもちゃづくり。「技術家庭の通常の授業では使わない工具がいろいろある。自宅でも家族と本棚作りや段ボールを使っておもちゃ作りをするようになった。そうすると、講義を受講後生徒たちの表現力が無限に広がります。」